



校長 杉谷 明

人生は「出発」の連続

4月8日、長い春休みを終え、1学年ずつ進級した生徒たちの元気な声が学校に戻ってきました。この日は、初夏を思わせる陽気で、鏡が沖の地にも「桜の開花」のたよりが届きました。午後から、多くの保護者・来賓の皆様が見守る中、新入生77名を迎えて入学式を行うことができました。新入生一人一人の力強い呼応、凜とした立ち居振る舞いから、これから始まる中学校生活への強い決意を感じ取ることができました。

<今回は、入学式式辞(始業式の講話)の内容を抜粋して紹介します>



人生とは「出発」の連続です。

<堂々と「喜びの言葉」を述べる新入生代表>

10代のあなた方を青年期と言います。この時期は、己を知り、他を知り、社会を知り、自分の人生を自分で決めていく大切な時期です。自分の人生を有意義にするのも、この時期の「出発」にかかっています。ここで大切なのは、ここで言う「出発」は小さな出発の積み重ねであるということです。小さな出発の一步一步が、(卒業)後にくる大きな出発を決めます。その小さな出発をするために、次の3つのことが大切です。

1つ目は、周りの人を大切にする「愛する心」をもつことです。

インドの詩人タゴールが、「ハンマーで錠前は開かない。その錠前にあった鍵でなら開く」という言葉を残しています。ものごと・身の回りにある課題は、力づくでは解決できないという意味です。もし、この言葉に続きがあるならば、私はこう続けます。「その鍵はどこにも売っていない。誰も貸してはくれない。あなた自身で作らなければならない。その鍵は愛という鍵だ」。あなたの周りにいる人を大切にしてください。周りの人を愛し、一緒に協力しなければ、ものごと・身の回りにある課題は解決できません。



2つ目は「考える力」を身につけることです。

「考える力」を身につけるためには自己中心的な考えに陥らないことが大切です。自分が正しいと思い込んでしまうと偏った考えしかできなくなります。そうならないためには、たくさんのいろいろな人と出会い、語り合ったり、たくさんの本を読んだりして、多種多様な考えを知ること、そして謙虚な心で考えを膨らませていくことが大切です。じっくりゆっくり、思いを練ることで「考える力」を身につけてください。



3つ目は、「実践する」ことです。

実践する力を身につけていくには、「自ら動き出さなければ、すべてが始まらない」ということを肝に銘じることです。どんなに心を豊かにしても、どんなに考える力を身につけても、実践できなければ、何も始まりません。実践こそが、本当の意味の小さな「出発」になるのです。



「愛する心」「考える力」「実践する力」。このことを常に考え、今日から、あなたの人生にとって大切な青年期の小さな出発を積み重ねてください。そして、鏡が沖中学校の素晴らしい先輩たちのように、高く、まっすぐ、ゆっくりと成長してもらいたいと思います。

令和6年度 鏡が沖中学校職員紹介

[illegible]

4月10日(水)生徒会オリエンテーションを行いました



「1年生が早く学校生活に慣れること、また生徒会の意義や年間の流れを理解する」というねらいのもと、生徒会オリエンテーションを行いました。1年生の真剣な眼差しの中、2、3年生は生徒会本部・専門委員会・部活動のリーダーが中心となり、3月から準備した成果を発揮しました。全校生徒の一体感も生まれ、今年度の生徒の成長に期待が高まりました。

5月の主な予定

5月 1日 (水) 基礎基本テスト①－1 国語	16日 (木) 全校集会
2日 (木) 生徒集会	20日 (月) 職員会議 学びチャレンジ
7日 (火) 教育相談開始 教育実習開始	21日 (火) 耳鼻科検診
8日 (水) 基礎基本テスト①－2 数学	23日 (木) 生徒総会
10日 (金) 避難訓練	27日 (月) 教育実習終了日
13日 (月) 基礎基本テスト①－3 英語	30日 (木) 前期中間テスト
生徒会専門委員会	31日 (金) 高校説明会